

JavaScript講座 第4回

2026/02/05

Tam

前回の復習

calendar 関数の基本となっているのはこの形です。

```
function calendar(year) {  
  let html = "<table><tr>";  
  for (let d = 1; d <= 31; d++) {  
    html += "<td>" + d + "</td>";  
  }  
  html += "</tr></table>";  
  return html;  
}
```

これで、以下の HTML が作られます。

```
<table><tr><td>1</td><td>2</td>...<td>31</td></tr></table>
```

前回の復習

```
function calendar(year) {
    let html = "<table><tr>";
    let wday = new Date(year, 0, 1).getDay(); // year年1月1日の曜日を取得
    for (let d = 1; d <= 31; d++) {
        if (wday === 0) { // もし日曜だったら、
            html += "</tr><tr>"; // </tr><tr> タグで改行を入れます
        }
        html += "<td>" + d + "</td>";
        wday = (wday + 1) % 7; // 曜日を進めます
    }
    html += "</tr>";
    return html;
}
```

改行

</tr><tr> タグで改行が入る仕組みは以下のような感じです。

```
<table>
  <tr>
    <td>1</td><td>2</td><td>3</td>
  </tr><tr>
    <td>4</td>...<td>10</td>
  </tr><tr>
    <td>11</td>...<td>17</td>
  </tr><tr>
    <td>18</td>...<td>24</td>
  </tr><tr>
    <td>25</td>...<td>31</td>
  </tr>
</table>
```

!-- ここで改行が入る -->

前回の復習

このままだと、以下のような感じで、最初の行が左に寄ってしまいます。

```
<table><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td>
<td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>11</td><td>12</td>
<td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr><tr><td>18</td>
<td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr><tr>
<td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td>
</tr></table>
```

前回の復習

そこで、1 2 3 の行の左側に曜日分だけ <td></td> で空白を入れます。

```
for (let i = 0; i < wday; i++) {
    html += "<td></td>";
}
```

```
<table><tr><td style="border: solid 1px"></td><td style="border: solid 1px"></td><td style="border: solid 1px"></td><td style="border: solid 1px"></td><td>1</td><td>2</td>
<td>3</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td>
<td>10</td></tr><tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td>
<td>16</td><td>17</td></tr><tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td>
<td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr><tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td>
<td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr></table>
```

前回の復習

これで完成する calendar 関数が以下のようになります。

```
function calendar(year) {  
    let html = "<table><tr>";  
    let wday = new Date(year, 0, 1).getDay();  
    for (let i = 0; i < wday; i++) {  
        html += "<td></td>";  
    }  
    for (let d = 1; d <= 31; d++) {  
        if (wday === 0) {  
            html += "</tr><tr>";  
        }  
        html += "<td>" + d + "</td>";  
        wday = (wday + 1) % 7;  
    }  
    html += "</tr>";  
    return html;  
}
```

第4回／2月5日(木)

「JavaScriptとブラウザ」

- ブラウザからボタン操作でJavaScriptを実行させよう
- フロントとバックの違いを知ろう

祝日

祝日の情報は内閣府の

- 国民の祝日について <https://www8.cao.go.jp/chosei/shukujitsu/gaiyou.html>

というページで閲覧することが出来ます。

また、プログラムで扱いやすいように CSV 形式（後述）も同じページの以下のリンクで公開されています。

- 昭和30年（1955年）から令和8年（2026年）国民の祝日（csv形式：20KB）
<https://www8.cao.go.jp/chosei/shukujitsu/syukujitsu.csv>

今日はこのデータを利用して、カレンダーで祝日表示をしたいと思います。

CSV 形式

CSV(Comma Separate Variable)形式は、記号でデータを区切って表現する形式です。

氏名	性別	生年月日
福山雅治	男	1969/2/6
藤原紀香	女	1971/6/28
北川恵子	女	1986/8/22

氏名,性別,生年月日

福山雅治,男,1969/2/6

藤原紀香,女,1971/6/28

北川恵子,女,1986/8/22

祝日データ

祝日データをダウンロードして、メモ帳などで開くと以下のようになっています。

国民の祝日・休日月日, 国民の祝日・休日名称

1955/1/1, 元日

1955/1/15, 成人の日

1955/3/21, 春分の日

:

2026/9/22, 休日

2026/9/23, 秋分の日

2026/10/12, スポーツの日

2026/11/3, 文化の日

2026/11/23, 勤労感謝の日

カラムが2列しかありませんが、これも CSV形式となっています。

データの取得

今回はこの祝日データを JavaScript に埋め込んで使っていきましょう。

メモ帳からコピペで以下のようにします。

```
const holidays = '  
国民の祝日・休日月日, 国民の祝日・休日名称  
1955/1/1, 元日  
1955/1/15, 成人の日  
1955/3/21, 春分の日  
:  
2026/9/22, 休日  
2026/9/23, 秋分の日  
2026/10/12, スポーツの日  
2026/11/3, 文化の日  
2026/11/23, 勤労感謝の日  
`;
```

これで `holidays` 変数に CSV データが文字列として代入されます。

※ 記号 ` が見えにくいので注意してください。

データの解析

必要なのは祝日の年月日だけです。祝日の名前は使用しませんので、年月日だけを抽出しましょう。

split 関数が便利に使えます。

使い方：

以下のようにすることで、変数 str 内の文字列を `,` 記号で分割し、array 配列に代入します。

```
const str = "apple,orange,strawberry";
let array = str.split(',');
console.log(array);
```

改行で分割

CSV形式を、まずは改行で1行ごとに分割して、配列に格納しましょう。

本当に分割できているのかを確認するために、実験で行番号を付けて出力してみます。

```
let lines = holidays.split("\n");
for (let i=0; i < lines.length; i++) {
  const line = lines[i];
  console.log(i, line);
}
```

カンマ記号で分割

取り出した1行1行を `,` 記号で分割して、日付データだけを表示してみましょう。

```
let lines = holidays.split("\n");
for (let i=0; i < lines.length; i++) {
  const line = lines[i];
  let result = line.split(",");
  const date = result[0];
  console.log(date);
}
```